

山梨が舞台

連続テレビ小説

花子とアン

ヒロイン：吉高由里子

平成26年3月31日(月)～9月27日(土)〈全156回〉予定

【総合】(月～土) 午前8:00～8:15 午後0:45～1:00〔再〕

【BSプレミアム】(月～土) 午前7:30～7:45 午後11:00～11:15〔再〕 (土) 午前9:30～11:00〔1週間分〕

原案：村岡恵理「アンのおゆりかご 村岡花子の生涯」 脚本：中園ミホ 音楽：梶浦由記

「赤毛のアン」の翻訳者・村岡花子さんの
明治・大正・昭和にわたる、波乱万丈の半生記。

山梨の貧しい家に生まれ、東京の女学校で英語を学び、
故郷の山梨での教師生活をへて翻訳家への道を進んだヒロイン・花子は、
震災や戦争を乗り越え、子どもたちに夢と希望を送り届けていきます。

アンのように、明日を信じ、夢見る力を信じて生きた花子。
その波乱万丈の半生を描き、お茶の間に、夢と希望をお届けします。



あなたの声と受信料で 公共放送

物語

太平洋戦争中。50歳になる花子は、空襲警報が鳴る中、カナダの女性作家・モンゴメリが書いた小説「アン・オブ・グリーン・ゲイブルズ」の翻訳に打ち込んでいた。出版のあてもないまま翻訳を続けるうち、花子はいつしか、主人公の少女・アンに自分の歩んできた人生を重ね合わせ、それらをあざやかに思い出すのだった…。

山梨の貧しい家に生まれた花子は、明治36(1903)年、10歳のとき、花子にだけは高等教育を受けさせたいという父・吉平の強い希望で、東京のミッション系の女学校に編入し、寄宿舎で生活を始める。華族や富豪の娘たちが学ぶ女学校になじめず、カルチャーショックを受けるが、家庭をかえりみない父に代わり一家の生活を支えるため、しっかり勉強して身を立てることを心に誓う。欧米文学との出会い。淡い初恋。そして生涯の友・葉山蓮子との友情を育んだ女学校での10年間は、花子にとってかけがえのない青春時代となった。

卒業後、教師として故郷・山梨に赴任。生徒たちを教えながら書いた本が出版されたのをきっかけに東京に戻り、出版社で働き始める。時代は大正から昭和へ。関東大震災や戦争を乗り越え、翻訳家という夢を実現させていく。危険をかえりみず翻訳を続けた「アン・オブ・グリーン・ゲイブルズ」が「赤毛のアン」として結実するのは、終戦から7年後のことだった。

人物相関図

